

# 放射線科

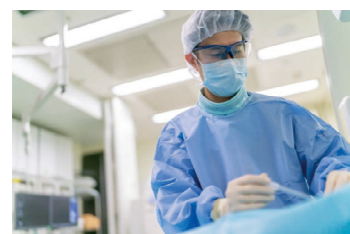


## 1. 放射線科の紹介

[当科の基本方針]

① 愛媛から世界に発信する ② 地域医療に貢献する ③ 明るく、楽しく、実力のある放射線科  
 →よく学び、よく働き、おおいにリフレッシュ!! ワーク・ライフのバランスをサポート  
 放射線科の業務内容には、**画像診断**、**IVR(画像下治療)**、**放射線治療**があります。画像診断の中には単純写真、CT、PET、RI、PET、透視など画像は多岐にわたります。

画像診断	画像下治療	放射線治療
画像を通じて患者と向き合い、主治医からの臨床情報と画像から得られた所見で最適な画像診断を下します。画像診断レポート作成のみならず、造影検査、透視造影などで実際に患者に接して検査業務を行う機会も多い。	カテーテルなどを血管内に挿入することで患者さんに小さな侵襲で行える治療です(下図)。様々な疾患が対象となりますが、放射線科で扱う疾患としては肝細胞癌の動注化学療法、出血に対する塞栓術、動脈瘤コイル塞栓術などがあります。	臓器温存を目指すピンポイント治療から化学療法などを併用した進行がんの治療まで、高精度放射線を使ったがん治療を行います。腫瘍治療には手術療法や化学療法を併用した集学的治療も増加しており、放射線治療はチーム医療における重要な一翼を担っています。



画像診断と画像を用いた様々な低侵襲治療は現代医学の中で最も進化した領域です。放射線科医はその中心的な役割を演じることの出来る魅力的な診療科です。画像診断は診断機器の急速な進歩もあり、まさに日進月歩で、「病気が画像で見える」時代になりました。AI(人工知能)も積極的に導入し、実際に臨床の読影時にも使用しています。放射線治療も1mmの精度でターゲット(がん)に線量をより集中させる高度の放射線治療で、「がんを切らずに治す」時代になってきました。各診療科を超えた存在である

**Doctor's doctor** としての放射線科医は欠くべからざる存在となっています。さらに、放射線治療やIVRは低侵襲治療分野における最先端として、ますます重要な役割を担うようになっていきます。放射線科は女性医師がキャリアと家庭を両立させながら安心して働き、最前線の医療に関わり続けることも可能です。現在、妊娠出産を経て、様々な形で働き続ける女性医師がたくさん在籍しています。当科では育児・復帰支援を全面サポートし、労働時間や業務内容については柔軟に対応します。近年、県内でも**遠隔画像診断システム**が設立され、様々なライフスタイルに応じた勤務態勢が可能となってきています。放射線科を目指すことは、**仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)**の上で大きな選択肢となります。現在、同門の放射線科医として、最前線で地域医療に貢献する医師が約100名程度いますが、放射線科に対する需要は増加し続け、魅力的な診療科であり、将来的にも画像診断および放射線治療は臨床医学の基盤領域になる診療分野です。最後に、放射線被曝については全員が年間平均自然被曝量(2.4mSv)の半分以下であり、他科と比較しても多いわけではありません。

## 2. プログラムの目的と特徴

放射線科には、大きく画像診断、放射線治療といった2つの大きな専門領域があります。専門研修の3年間では、放射線科医師としてこれら両方の専門領域について、まんべんなく知識を習得し、画像診断・放射線治療すべての基礎・臨床を学ぶことを目指します。なお、専門研修の初年度では、特に放射線科医としての基本的事項を理解し、安全な医療行為が行えるよう研修していきます。

## 3. 経験目標

画像診断、放射線治療すべての基礎・臨床を学びます。

## 4. 指導医や指導体制

教授・診療科長	城戸輝仁	循環器画像診断
准教授	城戸倫之	循環器画像診断
准教授	松田恵	腹部、乳房画像診断
講師	井手香奈	胸部画像診断
講師・医局長	川口直人	核医学、IVR
助教	上津孝太郎	放射線治療
助教	中村壮志	神経、循環器画像診断
助教	海老原るい	画像診断全般

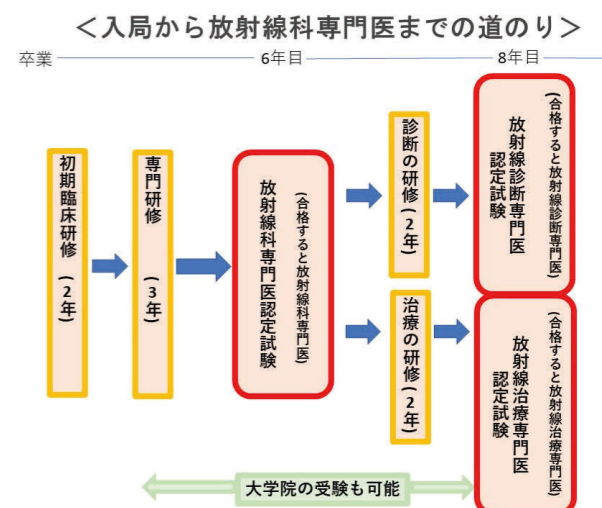
助教	福山直紀	IVR
助教	田邊裕貴	循環器画像診断
助教	高田紀子	放射線治療
助教	靄岡慎太郎	放射線治療
助教	吉田和樹	循環器画像診断
助教	岡田加奈子	画像診断全般
助教	岡田知久	画像診断全般
助教	年森亘	画像診断全般

## 5. 研修に関する行事

- 日常の教育症例カンファレンス・研修医レクチャー
- 医局抄読会・症例検討会
- 各科との院内カンファレンス(循環器、呼吸器、消化器、泌尿器科など)
- 学会や研究会への積極的な参加

## 6. 新専門研修プログラムについて

当科では、右図のように、初期臨床研修(2年間)終了後、専門研修(3年間)を完結し、専門医試験合格を目指します。3年間の専門研修では、1年目、2年目、3年目のどの期間を専門研修基幹施設と専門研修連携施設での研修を行うかにより、複数のコースが設定されています。いずれのコースも、研修期間の3年間のうち1年間は専門研修基幹施設(愛媛大学)を、2年間は専門研修連携施設で研修できるように設定されています。



## 7. 専門研修終了後について

3年間の研修終了後は放射線科一次専門医を取得し、診断と治療分野に別れて、診断および治療専門医取得を目指します。その後は様々な領域のサブスペシャリティ(画像診断、IVR、治療、核医学など)に別れていきます。大学院への進学はいずれの時期にも可能です。臨床研究での学位取得が可能ですので、専門医と博士号の取得を同時に目指すことが出来ます。大学院へ進学した場合でも、大学への診療や他病院の診療支援に携わるため、臨床のスキルアップや収入面においても、臨床医と遜色なく、大学院で医学博士号取得を目指すことができます。

## 8. 専門研修の問い合わせ先



愛媛大学医学部放射線科

TEL: 089-960-5371, FAX: 089-960-5375

[radiology@m.ehime-u.ac.jp](mailto:radiology@m.ehime-u.ac.jp)

診療科ホームページ <https://www.m.ehime-u.ac.jp/school/radiology/http2005/>